

第96回 中小企業景況調査報告書

10月～12月の実績と
1月～3月の見通し

■ 今期調査の景況キーワード

前年同期比売上D I値は▲1.0で、前期調査時より27.1ポイント増加した。(全業種で増加)
来期見通し売上D I値は▲20.0で、今期より19.0ポイントの悪化を予測している。地域経済は、引き続き持ち直しの動きが見られるものの、建設業においては、来期見通しD I値43.5ポイントと大幅な減少を予測しており、今後の動向を注視していく必要がある。
景況のキーワードとしては、「円高の影響」「需要の停滞」「販売単価の低下」などが挙げられる。

■ 調査時点 平成23年12月31日

■ 対象業種

製造業 25社(21) 建設業 23社(22)
卸売業 18社(13) 小売業 29社(18)
サービス業 25社(21) 合計 120社(95)
※()内は回答企業数

■ 回答率 79.2%

概況

◆ 売上状況(前年同期比)では、売上D I値▲1.0を示し前期調査時より27.1ポイント増加した。
業種別では卸売業で17.4ポイント、製造業38.2ポイント、サービス業36.7ポイント、建設業14.0ポイント、小売業で10.9ポイントと全ての業種で増加した。
来期見通しD I値は、▲20.0で今期調査時よりさらに19.0ポイントの減少を予測している。
◆ 採算水準(前年同期比)では、D I値は▲8.0で、前期調査時より21.2ポイント好転した。
業種別では卸売業で50.0ポイント、製造業23.6ポイント、サービス業23.2ポイント、小売業で19.6ポイント、建設業で10.2ポイントと全ての業種で好転した。
来期見通しD I値は▲24.0で今期調査時より16.0ポイントの悪化を予測している。
◆ 仕入単価(前年同期比)では、D I値は▲31.0で、前期調査時より0.7ポイントと悪化した。
業種別では卸売業25.0ポイント好転したが、小売業23.0ポイント、製造業4.5ポイント、サービス業3.5ポイント、建設業で2.7ポイント悪化した。
来期見通しD I値は▲32.0で今期調査時より1.0ポイント悪の化を予測している。
◆ 資金繰り(前年同期比)では、D I値10.0で、前期調査時より19.3ポイント好転した。
業種別では、製造業で31.4ポイント、卸売業26.2ポイント、小売業20.0ポイント、建設業14.0ポイント、サービス業5.6ポイントと全ての業種で好転した。
来期見通しD I値は、▲22.0で今期調査時より12.0ポイントの悪化を予測している。
◆ 雇用人員(前年同期比)では、D I値8.0で前期調査時より11.4ポイント不足を示した。
業種別では、卸売業20.3ポイント、サービス業17.4、建設業12.8ポイント、小売業

で9.1ポイントの不足となり製造業で4.9ポイント過剰となった。
来期見通しD I値は1.0で、今期調査時より7.0ポイントの過剰を予測している。

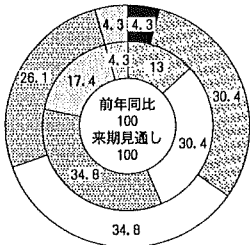
◆ 業界の状況(前年同期比)では、D I値▲62.0で、前期調査時より8.8ポイント好転した。業種別では卸売業で31.0、サービス業38.3ポイント好転したが、卸売業9.1ポイント、建設業で5.9ポイント、製造業で0.4ポイントと悪化した。
来期見通しD I値は▲46.0で、今期調査時よりさらに6.0ポイントの好転を予測している。

◆ 設備投資では、今期実施した企業20.0%で、来期の設備投資を計画している企業は14.0%であった。
経営上の問題点としては、製造業では「需要の停滞」「製品ニーズの変化」「製品(加工)単価の低下」、建設業では、「請負単価の低下・上昇難」「民間需要の停滞」「官公需要の停滞」、卸売業では、「需要の停滞」「仕入単価の上昇」「店舗・倉庫の狭溢・老朽化」、小売業では、「消費者ニーズの変化」「購買力の流出」「販売単価の低下」、サービス業では、「需要の停滞」「利用者ニーズの変化」「利用料金の低下」上昇難」

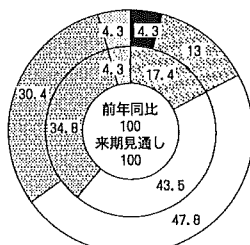
※業種別売上

外円は前年同期比
内円は来期見通し

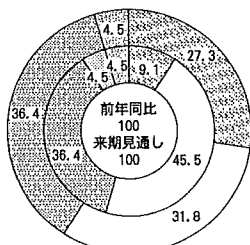
■ かなり増加
■ やや増加
■ 変わらない
■ やや減少
■ かなり減少
■ 回答なし



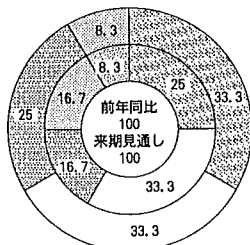
(単位：%)



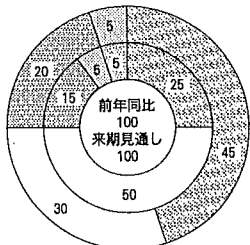
(単位：%)



(単位：%)



(単位：%)



(単位：%)